

横浜市立西富岡小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○少人数指導など、一人ひとりの課題に寄り添った指導を行い学力の定着を図っています。 ○学習習慣が身に付くように、学習ルールの確立を図っています。	○少人数指導についての計画が学年の時間割とうまく調整できず IT 指導の時間が多くなり課題が残った。 ○学習習慣は身につけているが、学習ルールについては、次年度より徹底する必要がある。	C
2 豊かな心	○道徳の時間はもとより、各教科等の授業を含む様々な教育活動の中で、特に異学年集団の中で自分や相手の良さを認め合う態度を育てています。	○年間を通して異学年集団での「ふれあい活動」を行い、友達よさを認める仲間意識が育っている。	A
3 健やかな体	○「早寝・早起き・朝ご飯・外遊び」を推進し、望ましい生活習慣を身につけたり、西富タイムを通じて体の健康づくりに取り組んだりする姿勢が育っています。	○生活習慣については、習い事や大人の時間に合わせた生活など課題が残る ○「西富タイム」(昼休み延長)を通して全校で外遊びをすることで体力の向上が図れた。	B
4 教育課程 学習課題	○「自分の思いを豊かに表現し 伝え合う子」をめざして、授業の工夫・改善を図っています。 ○身につかせたい能力を明確にして、確実に身につけられるよう指導しています。	○授業を伴う重点研究で言語活動を取り上げ授業の工夫・改善に取り組む。 ○学習状況調査等の分析結果をもとに身につかせたい能力をきちんと明確にしていくことに課題が残った。	B
5 児童指導	○児童一人ひとりを大切にして、学校全体で児童を育てるという意識で児童指導にあたっています。 ○「あいさつ」を通してコミュニケーション能力を育てています	○月に1度、児童の情報を全教職員で共有することに努め、指導も個人ではなく学校全体であった。 ○児童会活動でも「あいさつ」を年間に取り上げ徹底を図った。	B
6 特別支援 教育	○コーディネーターを中心に、個別的教育支援計画・指導計画の見直し、情報の共有化を進め、個別の支援が必要な児童に計画的に支援を行う体制を強化しています。 ○交流計画をもとに個別支援級の児童と一般級及び近隣の個別級との交流を行っています。	○校内委員会が組織として有機的に機能していないなど改善が必要である。児童の実態把握についても再度検討していく。 ○個別支援級児童の交流については、計画的に進めることができた。	C
7 安全管理	○避難訓練、交通安全教室、防犯訓練、職員不審者対応訓練など関係機関と連携を図って実施しています。 ○学校単独・独自の対応では機能できない災害等を想定して、地域防災拠点や近隣校との協働体制の確立を目指しています。	○関係機関との連携を図り、防災・防犯訓練が実施できた。 ○隣の中学校が震災等での役割について、明確になっていないという現状もあり協働体制をつくっていくのは今後の課題である。	B
8 人材育成 組織運営	○若手教員の育成として、メンターチームによる授業を通じた研修会で教師力を高め、指導力の向上を図っています。 ○各キャリアステージに適合した目標設定・目標達成を積み上げる中で、教職員個々として、西富岡小チームとしての教師力を高めています。 ○不祥事防止研修・人権研修を計画的に行い教育公務員としての意識の向上を図っています。 ○「学びの環境づくり」「子どもの安心づくり」の2部会を編成し、月1回の会議を行いブロック研や学年研で定期的に情報を共有しています。 ○主幹教諭を2部会各ブロックに配置し、学校運営上の課題点を把握し、改善するとともに学校経営力を高める人材育成を図っています。	○若手教員の授業研究では、南部教育事務所の指導主事に授業研の講師を依頼したり、主幹教諭が助言を行うなどしたりして授業力の向上を図っている。 ○西富岡小チームとしての協働体制はできている。 ○あゆみのご記載があり、ご記載防止に全力を挙げて取り組んでいる。 ○2部会会の校内組織は、今年度初めてということもあり、PDCA サイクルでよりよいものにしていく。 ○主幹教諭の役割については、今年度2名が初めてということもあり。今後より機能的に学校経営力を高めていきたい。	B

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○「小中一貫カリキュラム」の改善を行い、小中の教科・領域の連携を図った。 ○「結」をテーマに合同授業研究会を2回開催し、「人よりよくなる」とする児童・生徒」の育成に向けた授業を工夫した。 ○来年度以降は、全職員にアンケート調査を実施し、相互評価に反映させたい。
学校関係者 評価結果	○「あいさつ」について、地域でも子どもたちはよくできている。学年が上がるにつれて取っかきがあるようだが声に出さなくても会釈はしている。これからも学校の取組として続けてほしい。 ○特別支援の項目の評価が低いが、地域でも震災等で障害のある方の避難が問題になっている。学校でも障害のある方への理解を子どもの時から身につけていくようにしてほしい。
評価結果に 対する 学校の 見解	○小中一貫カリキュラムを保護者にも公開し、一貫ブロックでの具体的な取組を示し、周知を図る。また、教員相互の評価結果も公開していく。 ○特別支援教育の推進は、校内組織をしっかりと機能させ、教職員の共通理解を図りながら全校で進めていく。

学校経営 中期目標 達成状況	○今年度は、一人ひとりの課題に寄り添った少人数指導など確かな学力向上に向けた取組が、推進できなかった。子どもの見とり、指導の工夫など改善を図っていく。 ○異学年ふれあい活動「なかよし活動」については、子どもたちの中に浸透してきている。今後も継続して取り組み、豊かな心の育成を図っていく。 ○体力向上の「西富タイム」の設定は、定着してきているので、今後も継続して取り組んでいく。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・「分かる授業」実現のため言語活動を重視した授業の実践や少人数指導による一人ひとりに寄り添った指導の実践を行い学力の定着を図っています。	○少人数指導の実現を図り、落ち着いた学習できる環境ができています。 ○言語活動についての取り組みは見られたがさらに工夫を重ね情報の共有化を図る必要がある。	B
2 豊かな 心	・道徳時間はもとより、全ての教育活動を通して、自他ともに尊重し合い、高め合う心情や態度を育てています。	○自他ともに尊重する雰囲気は児童全体に広がりつつある。 ○幼い考えからくるトラブルが時折みられる。目標を上方修正してさらに豊かな心を目指したい。	A
3 健やかな 体	・「西富タイム」(外遊びの推進)を通して週1回全校で体力の向上を図っています。	○西富タイムは通年実施できた。 ○児童の実態を見ながら目標を上方修正する必要がある。	B
4 教育課程 学習課題	・「自分の思いを表現し、豊かにかかわり合う」国語科学習をテーマに、年1回全ての教員が授業研究を行い、指導と評価の一体化を図っています。	○授業を伴う重点研究で言語活動を取り上げ授業の工夫・改善に取り組む。 ○自ら問題意識をもち、判断し行動できる児童の育成に課題が見られた。教師の指示が少なくなるような単元の工夫が必要。	B
5 児童生徒 指導	・児童支援専任を中心に子ども一人ひとりを大切にして、学校全体で児童指導にあたっています。 ・「いじめ防止基本方針」に則った指導を行っています。	○児童支援専任を中心に、事案へチームで対応する意識が高まった。 ○いじめ解決のための生活アンケートなどを複数回行いいじめの未然防止に今後も力を入れていく。	B
6 特別支援 教育	・コーディネーターを中心に、児童・保護者の教育的ニーズに応じた支援体制を構築しています。 ・個別支援級児童と一般級児童及び近隣個別支援級との交流を図っています。	○1年生の配慮児童には教育ボランティアATを配し成果を上げた。他学年については、個別の指導計画が形骸化し情報の共有や支援の継続に課題が残った。 ○近隣小中学校の交流について今後も計画的に進めていく必要がある	C
7 安全管理	・防災・防犯訓練、交通安全教室等を通して、児童の危機管理能力を高めています。 ・様々な事故対応マニュアルを作成し迅速な対応ができるようにしています。	○事故対応マニュアルは実際のことを想定しながら改善されている。 ○教職員全体、児童全体に意識が広まるような訓練や研修が必要。	B
8 人材育成 組織運営	・経験の浅い教員の育成として、メンターチームによる授業を通じた研修で教師力を高め指導力の充実を図っています。	○主体的に研究授業を行い、一定の成果を見た。メンター以外にもライフステージを意識した指導力向上研修が必要と思われる。	B

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○児童生徒理解研修で「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の実践を報告しあった。教職員の指導方法や指導技術の向上につながったが、児童生徒のコミュニケーション能力の育成には課題が残った。 ○「キャリア教育」の視点を重視した取り組みをブロック全体で進めていきたい。
学校関係者 評価結果	○あいさつは学校にさらなる取り組みを期待する。しかし家庭教育の影響も大きいことなので学校・家庭・地域で協同した取り組みが必要。 ○学力向上のためには児童が思考・判断し決定する学習を積み重ねる必要がある。現在順調に学力を伸ばしているため今後も研究を続けてほしい。
評価結果に 対する 学校の 見解	○あいさつについては27年度、保護者・地域の協力を呼びかけながら進めていく。 ○学力向上については問題解決的な学習の要素を取り入れて単元の工夫を進めていく。本年度の成果である指導と評価の一体化についても合わせて研修を進めていく。

学校経営 中期目標 達成状況	・「わかる授業」実現のため、算数少人数指導は習熟度別授業にも取り組み、一人ひとりに寄り添った指導ができていた。 ・児童支援専任が配置され、1年生の配慮が必要な児童への支援は成果を上げた。一方他の学年の児童については、個別の指導計画を活用した支援が十分とは言えず、今後、校内体制の整備とともに改善を図っていく。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・指導と評価の一体化をふまえた子ども「わかる授業」の実現を図ります。 ・「言語活動」を効果的に位置づけ、主体的に学ぶ自動を育成します。	○少人数指導の連携を図り落ち着いた学習ができる体制ができています。 ○言語活動を視野に入れた単元の工夫ができています。	B
2 豊かな 心	・道徳をはじめすべての教育活動で自他を尊重し互いを高めあう心を育てます。その中で自己実現をめざし互いを認め合えるようなあいさつの定着を図ります。	○自他ともに尊重する雰囲気は児童全体に広がりつつある。 ○児童のトラブルが時折みられる。保護者に連絡を取りながら豊かな心を目指した指導を進めている。	A
3 健やかな 体	・「西富タイム」を計画的に進められるように各学級の指導を工夫します。 ・年4回程度、季節に応じた体力向上の取り組みを実施します。	○西富タイムは通年実施できた。 ○児童の実態に合わせて体育的な内容を数多く取り入れることができた取り組みを実施します。	A
4 教育課程 学習課題	・指導と評価の一体化を念頭に置いた単元構成の工夫を図ります ・「問題解決的な単元構成」の実践を進め学力の定着を図ります	○授業を伴う重点研究で言語活動を取り上げ授業の工夫・改善に取り組む。 ○高学年を中心に、自ら問題意識をもち、判断し行動できる児童の育成に成果が見られた	B
5 児童生徒 指導	・児童支援専任を中心に子ども一人ひとりを大切にした児童指導を継続していきます。 ・日ごろの見取りを生かしいじめの未然防止に努めます。	○児童支援専任を中心に、事案へチームで対応する意識が高まった。 ○いじめの未然防止に人権教育の成果を反映させながら成果をあげた。今後も力を入れていく。	A
6 特別支援 教育	・コーディネーターを中心に、個別の支援計画に基づいた支援体制を継続的に進める体制を作ります。 ・個別支援級児童と一般級児童及び近隣個別支援級との交流を図っています。	○1、2年生の配慮児童には教育ボランティアATを配し成果を上げた。個別の指導計画を用いた情報の共有や支援の継続に取り組んだが、課題が残った。 ○近隣小中学校の交流は今後も計画的に進めていく必要がある	C
7 安全管理	・防災・防犯訓練、交通安全教室等を通して、児童の危機管理能力を高めています。 ・発達段階に応じた危機管理教室を計画的に進めます。	○事故対応マニュアルは実際のことを想定しながら改善されている。 ○教職員全体、児童全体に意識が広まるような訓練や研修を実施できた。	A
人材育成 組織運営	・経験の浅い教員の育成として、メンターチームによる授業を通じた研修で教師力を高め指導力の充実を図っています。 ・必要な研修を臨機応変に進めます。	○主体的に研究授業を行い、一定の成果を見た。メンター以外にもライフステージを意識した指導力向上研修、不祥事防止研修を実施した。	A

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○小中合同研修会「アクティブ・ラーニング」を通して学んだことを生かして、問題解決型の授業展開を工夫した。 ○生活科や総合的な学習の時間で地域連携に視点を置き地域の材(人・物)を生かした単元の開発に取り組んだ。
学校関係者 評価結果	○あいさつは学校にさらなる取り組みを期待する。本年度は家庭にも投げかけ、学校・家庭・地域で協同した取り組みが始まった。 ○学力向上のためには今後も児童が思考・判断し決定する学習を積み重ねる必要がある。
評価結果に 対する 学校の 見解	○あいさつについては、保護者・地域の協力を呼びかけながら進め、学校の風土となるよう今後も取り組みを進めていく。 ○学力向上についてはさらに問題解決的な学習の要素を取り入れて単元の工夫を進めてほしい。本年度の成果である指導と評価の一体化についてもさらに研修を進めていく。

学校経営 中期目標 達成状況	・「わかる授業」実現のため、算数少人数指導は習熟度別授業にも取り組み、一人ひとりに寄り添った指導ができていた。 ・キャリア教育の視点を生かした「自分を見つめ生き方を考える教育」を引き続き推進していく。
----------------------	---

※ 当該年度の達成状況 : A … 十分達成 B … 概ね達成 C … 努力必要 D … 改善必要